

日銀那覇支店長の異動

(公認会計士制度 70 周年記念日の講演)

11 月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2020 年 11 月 12 日(木)

最近日銀の桑原康二那覇支店長が本店へ異動された。思い出が深いのは、2018 年 5 月赴任されて間もない 7 月 20 日(金)にロワジールホテル那覇で、「公認会計士制度 70 周年」の記念講演会において、「世界・日本・沖縄の経済動向」というテーマで約 2 時間もの講演をしていただいたことだ。

この年は公認会計士にとって、公認会計士制度がスタートして 70 周年を迎えた特別な年であった。

それだけに、会場にはいつもより多くの会計士や企業の方々がつめかけ、日本公認会計士協会本部の関根愛子会長も東京から足を運んで来ていた。

沖縄赴任 2 ヶ月の桑原氏は、新鮮な感覚で、沖縄経済を把握したうえで、日本経済と世界経済にも通曉し、聴き応えのあるお話であった。講演は

(1)世界経済は好調、しかし(2)好調の副作用ともいべきリスクは拡大、それは米中を中心にした貿易面の保護主義の高まり、そして日本では豪雨など自然災害のくり返しの常態化、その時の話は、今まさに現実化している。

3 点目は沖縄、(3)今最高に経済がいい状態、人口は増え、観光は最高に元気がある。この時期に構造的な企業体質を転換し、観光主体の一本足打法の周辺を強化するチャンスとしなければならない。個人所得、企業収益の改善向上の余地はまだまだあり、人手不足などの課題に正面から挑戦する必要がある。

根本的に言うと、一つ目は供給力の増強、二つ目は量から質への転換となる。供給力の増強は、国内はもとより海外からの観光客を迎える体制、それは、設備の状況の改善、増強はもとより、沖縄社会の中に観光を受け入れ、消化し、生活する状況、体質を作り出す努力である。それはまた、表面的に量を追求するのではなく、質に転換する沖縄の人々と経済と社会の努力である。

そして、「沖縄観光は、人様頼みなので、やっぱり怖い。」というのが桑原氏の言葉であった。

2 年半前の講演が昨日のこのように思い出され、それは今まさに世界、日本、沖縄の今日直面している現実になっている。

この間支店長とは、会計士会、沖縄事業再生研究会、沖縄経済同友会、沖縄政経懇話会などでお会いし、話を聴く機会も多く、特に印象の強い方であった。